

今日のキーワード 『ジャクソンホール』会議、漸進的な利上げが妥当

米国に12行ある地区連邦準備銀行のひとつカンザスシティ地区連銀は、毎年8月下旬にワイオミング州『ジャクソンホール』において、経済政策に関する国際シンポジウムを開催しています。世界各国から中央銀行総裁、政策担当者、学者などが参集し、世界経済や金融政策を巡る議論を交わします。今年の会議は「変化する市場構造と金融政策への影響」をテーマに、8月23日～25日に開催されました。

ポイント1 パウエルFRB議長は利上げ継続の妥当性を主張

パウエルFRB議長の講演の主題は「変化する経済における金融政策」

- パウエル米連邦準備制度理事会（FRB）議長は、8月24日にカンザスシティ連銀主催の国際シンポジウムで、「変化する経済における金融政策」という主題の講演を行いました。
- そのなかで、今後の金融政策の方向性について「インフレ率は、FRBが目標とする+2%に接近してきたが、緩やかな金融緩和解除の効果により、+2%を超えて更に上昇が加速するような気配は見えない。今後も力強い景気の拡大が持続するようであれば、緩やかな利上げの継続が妥当である公算が大」と述べました。

ポイント2 FRBが直面するリスクを踏まえると、漸進的な金融政策が妥当 中立金利は不確実性が高い

- 利上げを進めていく過程で、米連邦公開市場委員会（FOMC）が直面するリスクとして、(1)引き締めを速めて、景気拡大の期間を不必要に短縮化するリスク、(2)引き締めが遅く、景気過熱を招き、経済を不安定化させてしまうリスクの2点を指摘しました。
- さらに、金融政策を遂行するうえで重要な指標である潜在成長率や、中立金利に関しても不確実性が高いと述べ、この点からも「漸進的な利上げ」が妥当と主張しています。



今後の展開 リスクはインフレ期待の不安定化、その場合は如何なる対策も採ろう

- パウエルFRB議長は、「インフレ期待が大幅に上昇しないし低下する、あるいは再び危機の脅威が生じるような場合には、FOMCはどのような対策も講じると確信している」と語りました。これらを踏まえると、議長講演の結論は、つまるところ「今後の金融政策のかじ取りは経済情勢次第」ということに落ち着くと考えられます。
- 今回の『ジャクソンホール』講演を受け、米国市場では「利上げのペースが加速することはない」との観測が強まったこと等から、株式市場ではS&P500種株価指数等が史上最高値を更新し、債券市場では債券利回りが低下しました。一方、為替市場では、ドルが日本円やユーロ等の主要通貨に対して売られました。

ここも チェック!

2018年8月24日 米商業銀行の『融資基準』は緩和を継続
2018年8月15日 米『長短利回り格差』の縮小は景気後退の前兆？

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。